



北海道パートナーズとかち 代表取締役 川合 佑介さん

帯広駅に降り立つと、目に入ってくる「天然温泉」の看板。この、ふく井ホテルや十勝エアポルトスパそら、グランピングリゾートフェリーエンドルフなど、十勝に根差した幅広い事業運営を行っているのが、株式会社そらである。その保険部門を任せられ、更に昨年、スピノフという形で独立したのが、今回お話を伺った、株式会社北海道パートナーズとかちの川合佑介さんだ。

独立後、約1年の間に、主要部門である保険事業のほか、地域貢献活動として、十勝管内の小・中学校と地域をつなげる活動を活発に行っている。教育大学出身であり、保険の営業として、十勝管内の学校を回ってきた経験から、学校教育現場の現状にも理解が深い。

また、大学在学中には、現サッカーJ3のFC岐阜（当時JFL）の立ち上げに携わった経験もある。このように様々な経験をされながら活躍してい

る川合さんに、仕事をする上で大切にされていることや、教育現場に期待することについて話を伺った。

まず、仕事をする上で大切にされていることについて伺った。

「会社の理念を、『選ばれて愛される会社』としています。FC岐阜に関わったときの経験から、サッカーチームは地域に愛されてなんぼなのだと思われ、私自身も肌で感じてきました。地域と関わり、一緒に困り事や課題を解決していく、そういう会社になりたいと思っています。営業の根本は、課題解決で、そこは一番大事にしているところですが、地域に根差していくためには、地域の役に立てなければ意味がないと思っています。自分としては、せっかくの一度きりの人生を楽しんでもらいたいという思いもあって、誰かに喜んでもらえるように仕事をしたいですね」

と、川合さんは語る。

また、先生方に対する思いを伺った。「朝早くから夜遅くまで、授業やその準備、保護者への対応や部活動、少年団の活動など、多岐にわたる先生方のお仕事には頭が下がります。よい授業をつくりたいと頑張っている方々がたくさんいることも、学校を回らせていただく中で、ひしひしと感じています。しかし、時間の余裕も、予算も、外部とのつながりも、授業づくりの大きな壁になっているのではないのでしょうか。そんなときは、ぜひ、我々を頼っていただきたいです。企業とのつながりづくりや連携、日程調整、出前授業の実施など、スピード感をもって、全力でサポートします。社員には、学校からの依頼は断らないようオペレーションしています。当然、断らざるを得ないこともあるとは思いますが、我々のもっている知見を生かし、課題解決に向けて、お力になりたいと思っています。」

昨年度は、サッカー教室やマーケティングの授業づくりへの協力、SNS教室やSDGsに関わる出前授業と

いった様々な協力をさせていただきました。300人の子どもの出前授業や、先生方と一緒に一単元を通して授業づくりをした経験も貴重なものでした。私どもの会社は限られた人数ではありますが、社員の得意分野もありまし、いろいろな相談に乗ることができると思います」と、熱く語られた。

最後に、先生方に向けて、「私は教育大学出身ですが、FC岐阜に関わっているとき、尊敬する上司から、『社会を知らない教員になるな』と言われたことがあって、民間に就職したんです。でも、やはり未練みたいなものもあって……。だからこそ、先生方に何かしてあげたい、学校教育に役に立ちたいなという気持ちが強くあります。忙しい中、子どもたちのために頑張っている先生方が相談できるパートナーでありたいです。企業としては2年目になりますので、様々なご要望に応えられるよう頑張ります」と、メッセージをいただいた。

先生方の思いを実現する

パートナーでありたい。



上：サッカー教室の準備風景
下：川合さん自ら講師を務めている様子



右：SDGsに関わる出前授業の様子

北海道パートナーズとかち

問合せ先

- ◆ 電話 0155-40-7091
- ◆ HP <https://hp-tokachi.co.jp>

